

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.581

五条川の桜と、のんぼり洗い〈愛知県〉

「日本さくら名所100選」にも選ばれている愛知県有数の桜の名所・五条川。開花時期には、約7.6kmにわたって約1400本の桜が両岸を埋め尽くします。同時に、川の水で鯉のぼりの糊を落とす伝統的な「のんぼり洗い」も見られるとあって、多くの人で賑わいます。



イラスト：欽崎 花鈴

4月上旬に開催される「岩倉桜まつり」では山車の巡行も見られる



〈六十年〉

今年、還暦を迎えました。この六十年を振り返ると、「標準」↓「特別」↓「標準」で時代は移り変わっていると思います。

私が車の免許を取得した時代はミッドシップ車が「標準」で、オートマチック車は「特別」でした。しかし、現代はそのオートマチック車が「標準」になっています。また、年始には多くの店が休むのが「普通」で、営業している店は「特別」でしたが、昨今は年始でも営業している店が多くなっています。家の掃除も、ほうきと雑巾で行っていましたが、今では掃除機やモップを使っています。そう考えると今の「特別」は、将来「標準」になっているかもしれません。

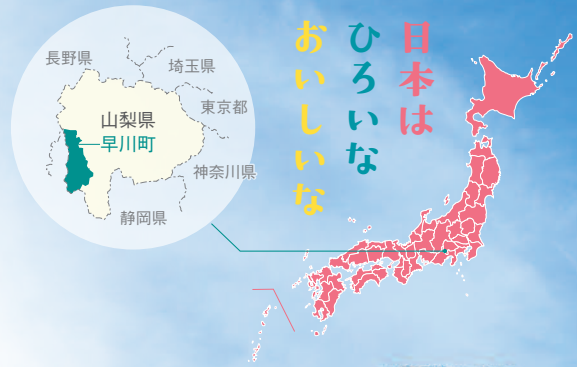
人と人とのコミュニケーションも、「対面対話」が中心で表情や言葉の強弱によって相手の思いを感じてきましたが、今ではインターネットなどによるコミュニケーションが増えました。インターネットは離れていても直ぐに伝えることができ大変便利ですが、思いをしっかりと伝えたい時には、やはり対面による対話が大切だと感じています。

時代が変われば環境も変わっていきます。これからも色々な分野で変化し続けると思いますが、その変化に柔軟に対応できる人でありたいと思います。

変えてはならない「道」Ⅱ「人」を思いやる心と、変えなくてはならない「経済」Ⅱ「社会への対応」との合一が大切だと、六十歳を迎え改めて感じました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



日本一人口の少ない町

南アルプスの山々に囲まれた、山梨県早川町。富士川の支流・早川の上流域にあり、ギネスブックに認定された世界一古い旅館『慶雲館』があることでも知られています。しかし、その一方で過疎化が進み、現在町に住まう人は約1100人と、日本一人口の少ない町になりました。

この町で、昔から伝わる暮らしや文化を守ろうと取り組んでいるのが日本上流文化圏研究所（以下、上流研）です。命の源である“水”を生み出す川の上流域、つまり山間部ならではの文化を研究し、現在は情報誌の発行や特産品の開発など早川町のまちづくり支援活動を行っています。ですが、実は上流研の事務局長を務める鞍打さんは、早川町の出身ではなく他地域からの移住者なのだから。



「子どもクラブ」では活動の内容もみんな決めて。写真のツリーハウスもそのひとつ



人や物を担いで山に登る伝統的な「強力（ごうりき）」を行う若者の姿も見られるように

山梨県早川町

「NPO法人日本上流文化圏研究所」

次世代へ伝えたい

山の暮らしのたくましさ

多くの人に知ってほしいとの思いで活動しています。」

「万能丸」と「結返し」 たくましい生活の哲学

早川町には山の暮らしを端的に表す“万能丸（まんのうが）”と“結返し（ゆうげし）”という言葉があります。“万能丸”は万能薬から転じた言葉で、何でもできる人のこと。早川町は深い山間部に位置するため、昔から便利なモノやサービスがなかなか届きませんでした。そのため人々は食べる物から使う道具、住む家まで何でも自分達で作るようになり、必然的にさまざまなことを万能にこなす技術を身につけていったのです。そして一人ではできない大変な作業は集落のみんなで助け合うことで、“結返し”という相互扶助の精神が育まれていきました。

「何かを頼るのではなく自分達の力で、仲間達と協力しながら暮らす姿勢は、生活の哲学とも言えると思います。私



山菜、鹿に食料となる山木など、早川はまさに宝庫

達はこの心を守り、継承することを目指しているんです。」

目下の課題は、次世代の担い手を育成すること。上流研では地元の子ども達を集めて『子どもクラブ』を発足し、自分で竹を切って弓矢や水鉄砲を作ったり、火を起こしてお昼ご飯を作ったりといった山遊びを行っています。遊びを通じてさまざまな経験を積み重ねることで、“万能丸”の力を身に付けようというのです。

また、情報発信の成果から近年では移住希望者も増えてきているそう。取材時にも都会から移住してきた方が、地元の人と笑顔で挨拶を交わすシーンを多々見ることができました。

「でも、私達は移住者を受け入れる際は、必ず集落の人々と話し合っています。大切なのは、単に過疎化を止めることではなく、早川の心を受け継ぐことだと思っております。」

厳しくも、豊かな自然に囲まれた小さな町。そこに脈々と受け継がれている生活の哲学は、今も力強く息づき、次の世代へと伝えられています。

山梨県特産品 クレソンを使ったお料理

クレソンの生産量は、山梨県が日本一。富士山の湧き水などでミネラルたっぷりに栽培されています。今回は爽やかな香りと、独特の辛味が楽しめるマリネをご紹介します。



材料（2人分）

クレソン 1束
セロリ 1/2本
砕いたクルミ 大さじ1
塩（塩揉み用） 小さじ1/6
オリーブオイル 大さじ1
白ワインビネガー 大さじ1
※殺菌酢小さじ2でも代用可
はちみつ 大さじ1/2
粒マスタード 大さじ1/2
塩（ドレッシング用） 適量
粗挽きこしょう 適量
ピンクペッパー 適量
※粗挽きこしょう適量でも代用可

作り方を教えてくれた人



料理研究家 沙希 穂波さん
メニュー開発やフードコーディネートなど幅広く活動している料理研究家。クレソンの生産地・山梨県道志村発行の、クレソンを使ったお料理のレシピを監修している。



①クレソンはざく切りにし、セロリは筋を取って5cm程度の長さに細切りにする。



②①に塩を振りかけて軽く手で揉み、5分程おいてから水気を絞る。



③ボウルに②と砕いたクルミを入れ、全体をさっくりと混ぜる。味がなじんだら皿に盛り、軽く砕いたピンクペッパーを散らしてできあがり。



ちよっぴー工夫で暮らしを楽しく

より子さんのノート

春ひじきの保存・活用術

ひじきは甘辛く下味(みりん:酒:砂糖:しょう油=1:1:2:3)をつけて保存しておく、常備菜に。卵焼きや和え物のアレンジにも使えて便利です。



【ひじきとトマトのサラダ】



- ① 下味をつけたひじき適量をオリーブオイルで炒めて、こしょう少々でアクセントをつける。
- ② トマトを一口大にカットし、レタスやグリーンリーフを適当な大きさにちぎる。
- ③ オリーブオイル大さじ1.5、塩少々、こしょう少々をよく混ぜ合わせ、①と②を和えるとできあがり。

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山在住。主婦歴40年の経験を生かし、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行なっている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。



左上:クッションはカバーを替えるだけで、手軽に部屋の雰囲気を更新
左下:佐島港にある市場では、旬の魚のおいしい食べ方も教えてくれる



春になると、新しい環境に飛び込んだり、新しいことを始めたりする人は多いのではないだろうか。また、なんだか気持ちも明るくなって、外に出てみようと思いつく機会も増えるはず。それらはきっと、春の息吹が私たちに前へ進む力を与えてくれるからだと思うのです。

心地よい陽ざしを感じたら、空を見上げて深呼吸をひとつ。いつも何気なく通る道のほとりには、可愛い草花が咲いているかもしれない。スーパーの野菜コーナーの品揃えが少しずつ変わってきて、食卓に春の献立が並べば家族もきつと喜んでくれるはず。慌ただしい日々からこそ、目を凝らして季節のめぐりを感じてみてください。疲れた心や体をちよっぴり元気にしてくれるはずですよ。

自然の力をもらって前へ

せんね。

旬の食材を使うと、お料理も楽しくなります。フキは甘辛く煮て、よもぎはお団子に練りこんで：献立を考えるだけでワクワクしますね。私の持論ですが、旬のものや地元で採れたものを食べていけば、自然と健やかでいられるのではないかと思っています。春の山菜や野草は苦みやアクがあったりしますが、昔からの言い伝えでは、それらは冬の間に体の中に溜まった不要なものを排出してくれるのだとか。寒い冬から活動の春へ、人々は昔から植物の力を借りて体の調子を切り替えてきたのかもしれない。

春の足音が聞こえたら

萌黄色の可愛らしい新芽に、今にも弾けそうな桜の蕾。厳しい冬が終わりを告げて、少しずつ春の息吹を感じるようになってきました。葉山に暮らしていて良かったなあと思うことのひとつが、季節のめぐりを感じられることです。移ろいゆく山の色や海の表情、花や草木から漂うやさしい香りは、心を豊かにしてくれます。特にこの季節は、日を追うごとに山桜が咲き出して山肌がピンク色に染まっていき、毎日飽きずに眺めてしまいますね。

そして何より季節の楽しみと
言えば、旬のものを食べることは
ないでしょうか。

旬の味をいただく楽しみ

私は春になると、道ばたに咲く草花を少しだけ摘んできては、小さな花瓶に生けてキッチンの隅やトイレなどに置いています。玄関にも、お花屋さんで買ってきた季節の花をよく飾っていますね。ちよつとしたことですが、草花があるだけで家の中にも季節の風を取り込める気がするんです。

家の中にも季節の風を

えがおで暮らせば

ぽかぽかと陽ざしが暖くなり、日に日に春めいてきました。暮らしの中に四季をちよっぴり取り込むだけで、なんだか幸せな気分。今回は、坂井より子さん流の季節との寄り添い方を伺いました。



坂井家で海藻類の天日干しが始まると、春が訪れたしるし
道ばたで摘んできた草花が、水回りにも春を運んでくれる

ほほえみのひろば



お隣さんにもらった自転車

島根県安来市 角森 玲子さん

息子が小学校入学前、自転車を購入しようと夫と相談していたところ、お隣のご主人が「うちの子の自転車を新しく購入するから、古い自転車を貰ってくださいませんか」と言ってくださいました。

自転車をみてびっくり！ピカピカに磨かれた上に、タイヤまで換えてくださった이었습니다。自転車のお礼を言うと、「安全に、大事に乗ってほしいからね」とお隣のご主人はにっこり。

このことをきっかけに私たち夫婦は「人様に物を譲るときはきちんと手入れをして、きれいにしてからあげよう」と心がけるようになりました。

後に使う人のことを考えてくれる、思いやりが嬉しいですね。



家族旅行

茨城県つくば市 塩野 雅代さん

長男の大学卒業に合わせて、夫と高校2年の次男との家族4人で、長男の住む北海道を旅行した。時折雪も降り、寒がりの長男がよく北海道で暮らせたものだと感じた。

私は久しぶりの家族旅行に心が緩みっぱなしだった。ふと、長男に「もっと丁寧な子育てをすれば良かったと反省している。申し訳なかったと思っている」と漏らしたら、「他の家で育てられたことがないから、わからん」と素っ気ない返事。でもそのひとりで、くよくよと悩んでいた私の心はすーっと晴れていった。あと2年、この北海道で大学院生として学び続ける長男にエールを送り、夫、次男とともに帰路についた。

照れ隠しの素っ気ないひと言の中から、感謝の気持ちが伝わってきます。



息子の助け

埼玉県鶴ヶ島市 秦 三千代さん

腰の右側にメキッと電気が走ったような激痛。ぎっくり腰をやってしまった。まだ布団で丸くなっている中学2年の息子に息も絶え絶えになりながら事情を話すと、彼はスクッと起き上がり、身支度を整えて自分の朝食の準備に取りかかった。

いつもならギリギリまで寝ていて、起きてからもエンジン始動までに時間がかかる息子。だが今回は、さすがに私の様子に危機を感じたようで、布団をあげて「ミシミシ」まで引き受けてくれた。

まだまだ何もできないと心配していた息子だったが、この日ばかりは底力を見せてくれた。息子の成長ぶりを感じながら、もう過度に手を貸さなくとも、自立に向かっているのだと嬉しくなった。

子どもの成長は、親にとってとても嬉しいことですね。



ようこそ、この町へ

岐阜県各務原市 信田 美智子さん

春、銀行で戸惑いながら受付の人と話している青年を見かけた。きつと、この町の大学に合格し、初めて自分で口座を開設するのだろうか。と勝手な想像をしながら見ていた。

数日後、近所のアパートから不動産業者らしき人とともに、別の青年がご両親と出てくるのを見かけた。この子も、この町で新しい生活を始めるのだろうかと思った。

私の息子たちが、それぞれ実家を旅立っていった日を思い出しながら、彼らに「どうぞ、この町を好きになってね。ようこそ、この町へ」と心の中で声をかけた。

期待が膨らむ新生活。きつと好きになってくれますよ。



休日の出会い

岩手県花巻市 熊谷 昌子さん

25年来のリウマチと付き合いながら、主婦業をこなしている私。週に一度のごほうびは、ちよつとした街あるき。半日のフリータイムはブティックを覗き、コーヒーラウンジで読書を楽しむ。

ここでは、3、4歳くらいの男の子と赤ちゃんがママとランチをしていた。しばらくすると、ママが「赤ちゃんの授乳をしたいのですが…」とお店の人に告げて、坊やはひとりで待つことに…。すかさず、私は「よかったら、坊やのこと見えますよ」と声をかけた。坊やは席を外したママを追いかけ回すこともなく待っていた。ママが戻ってきて「バイバイ」と店を出て行った坊やは、とてもお利口さんだった。

一緒にいてくれたから、坊やも安心したんでしょうね。



お世話になりました！

熊本市 楠本 真智子さん

長男が社会人としてスタートを切るため、4月に県外へと旅立つことになりました。旅立ちの日、家族3人で駅まで見送りに行きました。

小学校のころから反抗期がひどく、6歳下の弟とは口げんかが絶えませんでした。この子は大丈夫なんだろうか、などと思っていたるうちに、ついに旅立ちの時が。

新幹線のドアが開まる寸前、長男が私たちに深々と頭を下げたのにびっくり！同時に携帯電話に「お世話になりました」のメールが届き、私はもう号泣でした。

しっかり者の息子さん。きつと新天地でも大活躍されますよ！

燈々無尽

損の道をゆく

私は、自分に対しては「損の道を行く」と申しておりますが、実際には、いつも、これでいいのだろうか？と迷う事が多いのです。

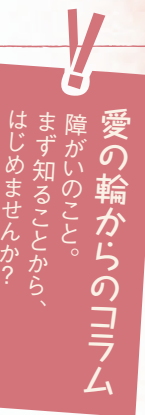
そこで、他の人が、図々しかったり、出しおしめをしたり、さっさと得の道をえらぶのを見ると「あの人も損をしたくないのだ」とわかるような気がします。

逆に、何時も人に与える事はかり考え、自分に受ける事のすくない人をみかけますと、スッカリほれこんでしまって、こういう人こそ、もっと捧げるべきだ、と思うのです。

鈴木清一



から段差を作らないという考え方です。言葉の違いこそあれ、すべての人に対して「思いやり」を持つということは共通しているんですね。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。

☎ 06-6821-5270 🌐 <http://www.ainowa.jp/>



あなたのお便りや写真をお寄せください。

みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

No.419からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>

欄田も
ほんのり
桜色



大阪府高槻市
竹内正成さん

春は
お昼寝の
季節



福島市
鈴木佳子さん

みてもらおう!

読者の皆様から
お送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。

ニッポンは
キレイな
国だなあ



神奈川県
逗子市
小澤正水さん

パパも
これに乗ってたん
だって



鹿児島県
さつま町
田中純子さん

ねえ次
どこいく?



岐阜県海津市
伊藤きよみさん

今日から
小学1年生!
頑張ります



広島県
東広島市
浜本保枝さん



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか!?

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてください!

**LINE紹介
ページへ
アクセス!!**



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp